

調査（資料探し）

レポートを書くときは、自分の言いたいことを書いただけでは誰も信用してくれません。自分の書きたいことのネタを資料から探したり、理論的な根拠を他の研究者や著者の本から借りてきたりします。そのための資料を探すことがレポートを書く上で最も重要な作業となります。ただやみくもにいきあたりばったり探したのでは時間ばかりかかって欲しい本に行き当たりません。アウトラインをもとに効率的に作業を進めていきましょう。

文献検索については、レポートの参考となる文献、文献検索の手順など、図書館で配布している[QUEST]に詳しく説明されています。ここでは簡単に概略に触れます。

【資料調査の例】

1. 基礎調査の場合

最初のテーマ（「問い」と「答え」）を探するための資料探し（基礎調査）の段階ではとしては次のような本をまずあたってみましょう。

- ・新書コーナーの本で一般的に取り上げられている問題点を把握する。
- ・入門書・概説書・授業内で使われているテキストで背景を概観する。
- ・百科事典、図鑑、専門用語解説辞典等で基礎的な用語や知識を押さえる。

2. 大学図書館のOPAC利用

大学図書館のOPACから本を探します。インターネットでどこからでも検索でき、また他の大学の本を取り寄せることもできます。

- ・キーワードを複数うちこんで検索
- ・1の基礎調査の段階で出てきた書籍名を検索
- ・1の基礎調査の段階で出てきた著者、主な研究者、研究機関等で検索

3. インターネットの利用法

インターネットの検索には通常YAHOO、やGoogle、Excite、Infoseekなどの検索サイトを用いますが、インターネットをキーワードで検索すると膨大な数のサイトがヒットします。中には信用しがたいものも多数あり、情報の取捨選択が難しい場合があります。出所がどこなのか、確かな情報なのかを必ず確認しましょう

著作権切れの文学作品などは、国内なら「青空文庫」国外なら「Project Gutenberg」などで無料でダウンロードできます。

インターネットの情報から引用する場合は、アドレスと著作権の所有者、最新更新日時をかならず明記しましょう。

ヒットしたサイトを一つ一つ調べていくのではなく、あらかじめ、ある程度のサイトを絞りこんでそこから辿っていく方が効率的です。例えば以下のサイトから基礎知識を仕入れ、リンクサイトを辿っていきます。

- ・インターネットの百科事典サイト(Wikipedia等)
- ・主な調査機関・研究機関・学術機関のサイトを調べてから、リンクサイトを辿る。
- ・アマゾン (<http://www.amazon.co.jp/>)、ビーケーワン (<http://www.bk1.co.jp/>)、紀伊国屋ブックウェブ (<http://bookweb.kinokuniya.co.jp/>)などの書評等を参考にする

4. 購入書籍の利用

ジュンク堂やフタバ図書など大型書店の専門書コーナーを探してみましょう。新刊書などで最新の情報が手に入る可能性が高いうえ、中身を確認してから購入できます。

【活用したい図書館のデジタル資料】

1. 図書館ホームページから利用できる新聞記事データベース

図書館のデータベースは年々充実しています。これまで朝日新聞、日経系列だけだった記事検索が、新たに読売、毎日系のサービスも利用できるようになりました。過去の記事も図書館のホームページから簡単に検索できるようになりました。VPNというソフトをダウンロードすれば自宅からでもアクセスできます。

入り方 図書館ホームページ右側の「文献・資料・情報検索」の枠の「データベース検索」

→「新聞記事を探す」→以下の中から新聞・媒体を選ぶ

- ・ 日経テレコン 21 （「ホーム」→「記事検索」タブをクリック）

日経4紙の記事がいつでも検索できます。学内専用とVPNの両方からアクセス可能。経済情報や企業情報、新商品情報、マーケティング動向などを調べるときにはとても便利

検索できる新聞・雑誌：日本経済新聞朝刊・夕刊、日本産業新聞、日本MJ（流通新聞）、日経金融新聞（現在休刊）、日経地方経済面、日経プラスワン、日経マガジン

- ・ 毎日NEWSパック

毎日新聞と週刊エコノミストの記事検索ができます。学内専用とVPNの両方からアクセス可能。

- ・ 聞蔵Ⅱビジュアル

朝日新聞、アエラ、週刊朝日の記事が検索できます。テキストデータと新聞記事画像の両方が手に入ります。学内専用。

- ・ ヨミダス文書館

読売新聞とThe Daily Yomiuri（読売新聞英語版）、人物情報が検索できます。学内専用。書評や連載シリーズ、やコラムなどもまとめられているので、読み物としても楽しめます。「基礎からわかるシリーズ」「日本語日めぐり」などがおすすめ。

2. デジタル総合百科事典 ジャパン・ナリッジ・プラス

日本大百科全書（ジャポニカ）から日本国語大辞典、ランダムハウスやプログレッシブ、各種英和辞典、現代用語の基礎知識、会社四季報まで、24の膨大な事典類がいつでも検索できる夢のようなデータベース。そのほかにも読み物として楽しい「亀井肇の新語探検」なども。

3. その他

- ・ 法律の判例データベースとして、TKC法律情報データベース、法律判例文献情報、法律時報文献月報検索サービスなどが利用できます。
- ・ CiNii（サイニイ=NII論文情報ナビゲータ）を使うと全国の専門雑誌の論文記事が検索でき、修道大学のOPACともリンクしていて便利です。
- ・ 新しいサービスとしてE-bookが始まりました。図書館サイトから紀伊国屋書店から提供の101冊の本が画面上で読めます。